



No.802
2023.12.15

発行：男声合唱団 昴
レッスン会場：
大阪市中央区谷町7丁目1-39
谷町第2ビル308号 ねむかホール
連絡先：090-6058-5652(立川)

昴団内コンサート開催

21名、2パートが熱唱

11月19日(日)、昴・団内コンサートがねむかホールで開催されました。ソロの発表は21人、TとBのパート演奏、中村聖保さんの発声指導と「睡蓮の花」(シューマン) 弾き語り、最後に全員合唱でフィンランディアを歌い、熱気あふれる一日となりました。

- 12月～1月の活動予定 (会議を除く)
- 12/15(金)18:00 定例レッスン
 - 12/17(日)14:00 定例レッスン
 - 1/ 5(金) 13:30 声楽中村教室
 - ” 18:00 定例レッスン
 - 1/ 7(日) 14:00 昴友の会定例練習会
 - 1/ 9(火) 13:30 声楽千秋教室 I
 - ” 18:00 T1.2、Br. Bs合同パートレッスン
 - 1/11(木) 18:00 平和音楽祭(クレオ大阪中央)
 - 1/18(木) 17:00 声楽千秋教室 II (変更)
 - 1/19(金) 18:00 定例レッスン
 - 1/21(日) 14:00 定例レッスン
 - 1/28(日) 14:00 平和を考える講演とうたごえのつどい
(核兵器禁止条約発効3周年記念)

【開会あいさつ】伊藤 知さん(副指揮者)
今年で12回目になりました。
それぞれ1年間練習してきた成果を発揮することになるわけですが、今回はたまたま14回コンサートがあって練習が十分できてない方もおら

れるかもわかりません。
今日は、一人一曲を確実に自分のものにして歌うことを心がけて、この曲で伝えたい中身を、練習を思い出しながらのびのびと精一杯歌ってください。

男声合唱団 昴 第十二回 団内コンサート プログラム

日時：2023年11月19日(日) 集合13:30 開演14:00 場所：ねむかホール

- | | | |
|--|--------------------|--|
| 1) 開会のあいさつ(伊藤 知) | 休 | 憩 |
| 2) 発声指導 中村 聖保 (昴声楽教室指導教師)
【睡蓮の花】詩：ハイネ 曲：シューマン | 15) 小西 隆 | 【石狩川エレジー】 P:中村 聖保
作詞：高橋 掬太郎 作曲：江口 浩司 |
| 3) 大橋 一雄 【悲しくなったときは】 P:中村 聖保
作詞：寺山 修司 作曲：中田 喜直 | 16) 若園 達雄 | 【落葉松】 P:中村 聖保
作詞：野上 彰 作曲：小林 秀雄 |
| 4) 光本 章 【年老いた外婆よ】 P:伊藤 杏葉
歌劇「ラ・ボエーム」第4幕 作：ジャコモ・プッチーニ | 17) 吉田 雄三 | 【雑草(なゝし)】 P:中村 聖保
作詞：高田 敏子 作曲：信長 貴富 |
| 5) 米田 剛 【空の端っこ】 P:中村 聖保
作詞：宮本 益光 作曲：信長 貴富 | 18) 立川 孝信 | 【夢みたものは】 P:中村 聖保
作詞：立原 道造 作曲：木下 牧子 |
| 6) 川妻 成美 【汚れっちまった悲しみに】 P:中村 聖保
作詞：中原 中也 作曲：石渡日出夫 | 19) 丹下 務 | 【鐘が鳴ります】 P:森 二三
作詞：北原 白秋 作曲：山田 耕作 |
| 7) 田中 三千夫 【レットイットビー】 P:森 二三
作詞・作曲： ポールマッカートニー | 20) 向井 勝弘 | 【曼珠沙華】 P:森 二三
作詞：北原 白秋 作曲：山田 耕作 |
| 8) 谷口 豊基 【雪のふるまをちを】 P:森 二三
作詞：内村 直也 作曲：中田 喜直 | 21) 東尾 博司 | 【菩提樹】 Der Lindenbaum P:森 二三
作詞：ヴィルヘルム・ミュラー 作曲：フランツ・シューベルト |
| 9) 更家 幸雄 【椰子の実】 P:森 二三
作詞：島崎 藤村 作曲：大中 寅二 | 22) 坂井 威文 | 【思い出すために】 P:森 二三
作詞：寺山 修司 作曲：信長 貴富 |
| 10) 寺脇 伸育 【忘れな草】 Non Ti Scordar Di Me P:森 二三
作曲： デ・クルティス | 23) 千秋 昌弘 | 【時間薬】 P:森 二三
作詞：千秋 昌弘 作曲：森 二三 |
| 11) 大島 成美 【苦惱】 Tormento P:森 二三
parole di Riccard Mazzola | 24) T1・T2演奏 | 【平和という果実】 P:中村 聖保
作詞：金子 静江 作曲：鈴木 憲夫 |
| 12) 吉川 勝彦 【燃える秋】 P:森 二三
作詞：五木 寛之 作曲武満 徹 | 25) Br・Bs演奏 | 【許せるかあなたは・燃えあがろう】 P:中村聖保
つぶてソング 作詞：和合 亮一 作曲：新実 徳英 |
| 13) 吉岡 敬 【さくら横ちょう】 P:中村 聖保
作詩：加藤 周一 作曲：中田 喜直 | 26) 全員合唱 | フィンランディア P:森 二三 |
| 14) 伊藤 知 【Il mio tesoro intanto】 P:中村 聖保
オペラ「ドンジョバンニ」 W.A. Mozart | 27) 閉会のあいさつ(坂井 威文) | |

追悼 三村千晴さん 2023年12月2日ご逝去
2005年7月に入団、昴のコンサートには第2回(2006年)から第12回(2019年)まで参加、肺気腫を患いながらも一緒に歌ってこられました。骨折により2019年11月から休団、今年1月に退団。間質性

肺炎に罹患、酸素ボンベが手放せない生活でしたが、自宅風呂洗い場で倒れて帰らぬ人に、ヒートショックとのこと。
広報部長として、長年に亘り、昴ニュースの発行に尽力されました。(2008年No.149～2017年No.620、9年間472回)又、昴の「9条バッジ」を制作していただきました。



**第14回コンサートと第12回団内コンサートを
終えて バス 丹下 務**

第14回コンサートと団内コンサートが無事終わった。夏の日うたには無念の涙をのんだが、昴の2023年の大事な行事に参加し、無事終わることが出来た。入団3年目の新参者、今なら言えるが、そのうち言えなくなる。そんな思いで、きわめて個人的な感想を書かせて頂きます。

1. 第14回コンサート雑感(演奏を通じ、CDを聞いて)
 まず第一に、新任された指揮者坂井さんのご尽力に感謝いたします。

合唱団にとって指揮者の交代は、大変難しい。団の運営者のご苦労もさることながら、指揮者ご本人も大変な気苦労があったのではと。

坂井さんの若さと、それに勝る合唱への情熱こそがコンサートを成功に導いた、のではないかと、感じています。

第二に、演奏を通じて、明日の昴にとって何が必要なことなのかを体感させられたことが有ります。

それは、ここ数年、急激に団員数が減少した、そのことに対してどうするか、明確に道が、指示された、ことです。

まずは団員を増やすことが大事ですが、それにもまして基本に立ち返り、新しい指揮者の下で、合唱の基本、「個々人の発声と、パート内の声を合わせる事、パート間のハーモニー、響きを合わせる事。」

20数名の男声合唱団は決して人数が少なくありません。ハーモニーが揃えば、30人40人の声の束になります。

私自身、低音部を歌っていますので、低音部に強くこのことが望まれていると感じました。

2. 第12回団内コンサート 雑感

他の合唱団にはない、贅沢な宝物です。本当に楽しい時間を共有いたしました。

ここでも坂井指揮者の若さ、情熱が、うたう事はこれぞと、堂々と見本を示されました。有難うございました。

ほとんどすべての団員が、1年間の練習の成果を発表しあえる。歳の功もあります、自由な音楽への取り組み、発表することによる、次への成長、団員一人一人の合唱に取り組む意欲の表れだなど、自分もその中にいることを有難く、嬉しく感じました。

お世話を頂いた方々に感謝申し上げます。そして何よりも、朝から夕方まで、50回以上、伴奏をして頂いたピアニストの方々に、深く深く感謝いたします。



団内コンサートに参加して T2 米田 剛
 昴、団内コンサート、初めて、参加しました。中村先生から、米田さん、空の端じっこ、この歌合いますよ。推薦、軽快なリズムで、詩の、内容好きになりました。広々とした、場所で、運動することが大好きで、この歌イメージして大空をみてニッコリ笑つたりしました。発表の時、ホンマ、音はずして まあ、最後のアドリブの分、笑顔でポーズとり笑い声が聞こえて、嬉しくなりました。皆さんの、歌、間近に聞けて良かったです。また次、参加します。どうぞよろしく願いいたします。

【閉会あいさつ】坂井 威文さん(指揮者)
 今年は初めて皆さんと一緒に舞台に立てて、一人で歌うことは、自分一人の責任で歌いきる大変なことだなどあらためて認識しました。オーケストラでもいい音楽を作るためには、構成の一人一人が優れた楽器使いでないとオーケストラの音楽はできない。合唱もそうで、まず一人一人がいい歌を歌えることが集まって、合唱はでき上がります。今日の本番がうまくいった人も僕みたいにうまくいかなかった人も、また一年かけて仕上げることを糧に来年の発表会に向けて頑張っていたらと思っています。